



氏名 山田実

年齢 41

所属 筑波大学

立候補の趣旨

現在、高齢化率が29%を超え世界随一の長寿国として超高齢社会を突き進む我が国において、介護予防の重要度・関心度は以前にも増して高まっております。特に近年では、介護予防分野への理学療法士の参画が叫ばれるようになり、多くの自治体で理学療法士が参画する事業に発展しています。私は、これまでに複数の自治体の協力を得ながら、介護予防に関する調査・研究を実施させて頂いており、様々な側面から介護予防のあり方について検討しております。特に介護予防事業の効果検証に関しては、フレイルの進展予防効果や転倒予防効果だけでなく、費用対効果の検証など種々の側面から検証を行っています。このような検証作業を行っていく中で、サルコペニアの管理、運動と栄養の組み合わせの重要性など、理学療法には栄養管理が不可欠であることが分かってきました。そして、本領域で理学療法士の存在価値を高めるためには、他学会・団体との連携を強化し、様々な専門職と一層の連携を図ることが求められます。この目標達成および本領域での学術基盤整備に向け、微力ながら尽力させて頂きたく、立候補させて頂きました。

役員歴

〈委員等〉

厚生労働省「一般介護予防事業等の推進方針に関する検討会」構成員（R1）

日本理学療法士協会 産業領域業務推進委員会委員長（R1～）

日本理学療法士協会 理学療法ガイドライン（フレイル班長）（H29～R3）

〈学会活動〉

日本栄養嚥下理学療法研究会 副理事長（R3～）

日本予防理学療法学会 理事（R3～）

日本老年療法学会 副理事長

日本サルコペニア・フレイル学会 理事（R1～）

日本転倒予防学会 理事（H26～）

日本老年医学会 代議員（H28～）

日本サルコペニア・悪液質・消耗性疾患研究会 理事（H28～）



氏名 吉田剛

年齢 61

所属 高崎健康福祉大学

立候補の趣旨

栄養・嚥下理学療法領域は、身体を維持するために必要な基礎的な要素であり、今後、より専門的に取り組まれるべき専門分野であると考えている。そのためにもこの領域に理学療法士の専門性がどのように必要なのかを検証し、エビデンスを構築していく必要性を強く感じている。一方、この領域に対する理学療法は、まだ卒前教育でも十分に扱われておらず、臨床においても管理栄養士や言語聴覚士などの関連職種に必要とされるレベルに達しているところは少ない現状である。

2022年には、研究会から法人学会へと昇格すべく準備している現状において、理事となりこの流れを推進していきたいと考えている。

役員歴

2015年：栄養・嚥下理学療法部門の初代代表運営幹事として部門設立。

2018年：第1回栄養・嚥下理学療法部門研究会を学術集会長として単独開催。
同年、予防学会（北九州）との共催での研究会開催が始まった。

2019年：第2回栄養・嚥下理学療法部門研究会を学術集会長として単独開催。
第1回研修会の開催。
予防学会（広島）との共催で研究会開催。

2020年：第3回栄養・嚥下理学療法部門研究会を学術集会長として単独開催。
日本予防理学療法学会大会長兼栄養・嚥下理学療法部門研究会長としてWEB開催

2021年：学会連合の中に日本栄養・嚥下理学療法研究会を発足し、初代理事長に就任。



氏名 森下元賀

年齢 44

所属 吉備国際大学

立候補の趣旨

理学療法士では、栄養・嚥下の領域に限らず、多職種と連携して対象者の生活、活動、参加を支援していくことはいうまでもないことです。その中で、私はこれまで嚥下機能に関する研究を行ってきましたが、嚥下機能に対する理学療法では、姿勢や呼吸機能、栄養状態を考慮した身体活動が専門領域といえるところがあります。口腔・嚥下機能と視野を広げてみると、多くの先行研究で口腔・嚥下機能と身体活動、参加が互いに密接に結びついていることが示されており、私の論文 (Morishita M, et al., Clin Exp Dent Res. 2021) でもその点は示しました。そのように、直接の嚥下機能に対してだけでなく、歯科領域の専門職とも連携して口腔機能を評価した上で、理学療法士は対象者の身体活動、参加を評価、アプローチしていく必要があります。私は日本老年歯科医学会にも所属しており、学会役員の歯科医師とも理学療法士との連携の方法について話し合いを行っております。そこで、今回、私は日本栄養・嚥下理学療法研究会の理事に立候補し、摂食嚥下リハビリテーションに関わる医科、歯科専門職の学術団体との学術大会における合同シンポジウムや合同研修会を企画し、医科、歯科専門職とのより一層の連携や理学療法士の職域の拡大を図りたいと考えております。

役員歴

2013-2017年 岡山県理学療法士会西支部副支部長
2016年 第22回岡山県理学療法士学会 大会長
2017年-現在 岡山県理学療法士会西支部支部長
2019年-現在 「理学療法学」「Physical Therapy Research」 査読委員
2021年 日本理学療法士学会 第4回栄養・嚥下理学療法部門研究会 特別講演講師
2021年-現在 日本栄養・嚥下理学療法研究会理事
2022年 第27回岡山県理学療法士学会 大会長 (予定)
2023年 第8回日本栄養・嚥下理学療法研究会学術大会 大会長 (予定)



氏名 井上達朗

年齢 37

所属 新潟医療福祉大学

立候補の趣旨

私は、高齢者の栄養問題（低栄養、サルコペニア、フレイル）に興味を持ち、臨床と研究に従事してきました。臨床では栄養サポートチーム（NST）に所属し、栄養領域での理学療法のあり方を模索してきました。同時に、日常での疑問を解決すべく臨床研究に取り組んできました。これらの経験から、私が考える日本栄養・嚥下理学療法研究会として取り組むべき課題を3つ挙げます。一つ目は、「栄養・嚥下理学療法の確立」です。低栄養やサルコペニア、フレイルを有する対象者に対して、理学療法士の強みを活かした評価・介入方法を明確にします。理学療法士の栄養問題への関り方を明確にすることが、質の高い多職種連携を促進すると考えます。二つ目は、「卒前の栄養学の教育指針の明確化」です。理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則において、栄養学の履修が必修化されました。理学療法士として、どのような知識が必要かを研究会として明確にします。三つ目は、「栄養・嚥下理学療法研究の推進」です。多くの理学療法士が栄養問題に興味を持っている今、研究会としてエビデンスの構築に努めます。皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

役員歴

当該学会に関わる業績等

2014-2019：兵庫県理学療法士協会 卒後教育部 部員

2019-2020：兵庫県理学療法士協会 学術編集部 部員

2021-：日本理学療法学会連合 日本栄養・嚥下理学療法研究会 理事

関連学会等

2016-2020：兵庫NST研究会 世話人

2018-：日本臨床栄養代謝学会 学術評議員

2021-：日本骨粗鬆症学会 骨粗鬆症リハビリテーション委員会 委員

2021-：日本老年療法学会 理事

2022-：日本リハビリテーション栄養学会 代議員

国際誌筆頭・責任著者論文14編，国内誌筆頭論文3編，受賞歴4回。高齢者の栄養問題に関して，様々な医療機関との共同研究を行なっています。



氏名 小泉千秋

年齢 55

所属 神奈川リハビリテーション病院

立候補の趣旨

私が理学療法士になった20数年前は、摂食嚥下障害に対するリハビリテーションは一般的でなく、理学療法も皆無でした。栄養についても、リハビリテーション栄養の概念はまだ新しいことです。しかし、嚥下も栄養も今は当たり前のように一般化されてきています。

そもそも、摂食嚥下障害は口腔・咽頭周囲の局所の機能障害と考えやすいですが、全身の機能が影響しています。その観点から、言語聴覚士が中心に行われている摂食嚥下障害の対応には理学療法士の関わりも必要です。今後、嚥下理学療法を実現していくためには、①治療技術の確立②研究や論文の集積によるエビデンスの確立③他職種との連携が必要と考えています。将来的には、理学療法士の誰もが嚥下や栄養の知識と技術を持ち、日常の臨床場面で当たり前のように嚥下や栄養の問題に対応している世の中になればと思います。

今後栄養・嚥下研究会は学会化していく方向で進んでいきます。そのために私は嚥下部門を中心に少しでも寄与できる活動を行えればと思います。

役員歴

2017年	栄養・嚥下部門	運営幹事
2021年	栄養・嚥下研究会	理事



氏名 鈴木裕也

年齢 39

所属 製鉄記念八幡病院

立候補の趣旨

栄養・嚥下理学療法研究会は、日本理学療法士協会の分科学会・部門の一つとして発足し、昨年10月に研究会として新たに学術的な団体として歩み始めました。私は、この部門の時期から運営幹事として当研究会の企画・運営に関わり、特に栄養理学療法の臨床場面での普及・教育に努めてまいりました。また、研究会内では、広報委員としてHPやメルマガで皆さんへの情報伝達をする活動をしておりました。

栄養理学療法や嚥下理学療法は、近年どの疾患領域でもトピックスであるサルコペニアやフレイルとの関係性が深く、疾患の専門領域に関係なく幅広く関わる分野になります。特に「栄養」というのは、人が生きるためには必須の要素であり、またその栄養を摂るためには「食べる」という行為が必要で、嚥下という仕組みを知り、そこに理学療法士として介入できる知識や技術を持ち合わせることは、特に訪問リハなど在宅・生活期を診る理学療法士にとっては重要な分野と考えています。

しかし、栄養・嚥下理学療法は、臨床場面で普及しているかということ、どのような介入なのか、その効果はどうなのかといった課題は山積し、エビデンスを語れるほどの臨床研究の蓄積もありません。今後、この分野における臨床場面での発展と臨床研究の普及と、エビデンスの構築のために本研究会の理事として活動していきたいと、今回立候補いたしました。

役員歴

平成29年1月～ 福岡県理学療法士会 代議員
平成31年4月～ 日本理学療法士分科学会学会・部門 栄養・嚥下部門 運営幹事
令和元年7月～ 福岡県理学療法士会 学術局学会部部長
令和2年2月2日 第29回福岡県理学療法士学会学会長
令和2年4月～ 日本理学療法士協会 代議員
令和3年10月～ 日本栄養・嚥下理学療法研究会 理事
令和4年2月19日 第6回日本栄養・嚥下理学療法研究会学術大会 大会長



氏名 立松典篤

年齢 38

所属 名古屋大学

立候補の趣旨

私は、主になん領域における臨床および研究活動を通して、運動と栄養の重要性を実感してきました。国際的にみても、高齢者や有疾患者に対する運動と栄養は非常に注目されており、多数の大規模研究やシステマティックレビューなどが実施され、急速にエビデンスが構築されてきています。その一方で、本邦の理学療法士養成教育および卒業教育において、運動と栄養に関する教育・研修体制は未だ十分ではありません。また、研究面においても、単施設での小規模な研究が多く、新たなエビデンスを創出していくためには多施設における大規模な研究やデータベースの構築が必要不可欠です。以上より、私は本研究会での活動や発展を通して、本邦におけるこの分野のエビデンス構築と教育・研修体制の整備のために尽力したいと考え、日本栄養・嚥下理学療法研究会の理事に立候補することを決意致しました。

役員歴

日本理学療法学会連合 日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会 評議員
日本理学療法学会連合 日本栄養・嚥下理学療法研究会 評議員
日本がんサポーターシップケア学会 Cachexia部会 委員



氏名 南谷さつき

年齢 44

所属 株式会社gene 介護保険事業部門 第一事業部訪問看護ステーション 仁稲沢サテライト

立候補の趣旨

日本理学療法士協会に栄養・嚥下理学療法部門が創立された2017年より、立ち上げメンバーとして栄養・嚥下分野の普及・向上を図るとともに、部門及び研究会の運営に尽力して参りました。

今後、研究会から学会化への移行を目指す過渡期に差し掛かり、この分野の普及・向上とともにより一層の研鑽が求められていると感じております。

そこで、これまでの経験を活かしつつ、新たな視点を持ちながら臨床及び研究力の向上のバックアップができるような会へと進めていきたいと考え、この度理事に立候補いたしました。

どうぞ宜しくお願いいたします。

役員歴

2017 栄養・嚥下理学療法部門 運営幹事

2021 日本栄養・嚥下理学療法研究会 副理事長

日本理学療法学会連合 財務委員会



氏名 小西信子

年齢 31

所属 国立がん研究センター東病院

立候補の趣旨

この度、日本栄養・嚥下理学療法研究会の理事選に立候補いたしました国立がん研究センター東病院の小西信子と申します。
今年度から評議員として運営に携わせて頂いております。

私が理事に当選した暁には皆さまが参加しやすい、活躍しやすい研究会を目指します。

理学療法士の男女比は6：4（2021年）と女性の理学療法士の数が増えてきており、そのほとんどが20～40代までの女性です。女性会員は男性会員と比較すると出産や育児などのライフイベントで休会しやすく、研究の継続が困難になる場合や、発表や研修会などの参加が行いにくくなるのが現状です。男性会員もワークライフバランスの観点から育児や家庭に積極的に参加している方も多く、大学院への進学や休日の研修会、学術大会への参加はパートナーの負担が多くなり、参加しにくいと感じている方もいるかと思えます。

皆様からご意見をお聞きした上で新型コロナウイルスが収束したのちも様々な形で参加しやすい研究会を目指していきたいと思えます。
また、在宅でも質の高い研究を会員が行えるよう、研究の方法や組み立て方などを学べる仕組みを考えていきたいと思えます。
会員の学術大会への参加や研究の発展は日本栄養・嚥下理学療法研究会のさらなる発展になる繋がると考えております。

皆様のお力になれるよう尽力させていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

役員歴

2021年9月 日本栄養・嚥下理学療法研究会評議員



氏名 小川真人

年齢 35

所属 神戸大学医学部附属病院

立候補の趣旨

栄養・嚥下理学療法は高齢化が進む本邦において、特に社会的要請が強く、早急に実践として確立していく必要があり、エビデンスの構築は急務であります。私は、これまで急性期病院において、栄養・嚥下についての知識と技術の普及と、エビデンスの構築に取り組み、臨床・研究・教育に携わってきました。立候補にあたり、以下の3点の実行を通じて社会に貢献できる研究会、また法人学会となれるよう尽力致します。

1. 研究活動を推進するための機会や環境を広く整備することにより、栄養・嚥下理学療法のエビデンスの構築に資すること
2. 研究者同士の自由な意見交換や連携を促進する機会の提供を通して、学会員同士の関係性構築、ひいては将来の栄養・嚥下理学療法の科学性を追求する理学療法士の教育に資すること
3. 関連領域学会と積極的に連携を促進することにより、相互的な発展に資すること

栄養・嚥下は、どの対象者にとっても基盤となる部分であり、学際性に関しても多くの伸び代があると考えております。そこで、疾患横断的に栄養・嚥下理学療法の専門性を高め、エビデンスの構築、学際性の向上を通じて社会的使命を果たせるよう尽力したく存じます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

役員歴

日本循環器理学療法学会 評議員
日本栄養・嚥下理学療法部門 評議員
日本老年療学会 評議員
第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会 プログラム委員



氏名 久保高明

年齢 50

所属 熊本保健科学大学

立候補の趣旨

食事を口から安全に摂ることは、誤嚥を予防するなど生命維持の観点から非常に重要です。また、筋力増強運動や歩行練習など理学療法の実施にはエネルギー消費を伴いますが、必要なエネルギーを経口摂取できることは、理学療法的前提になるかと存じます。さらに、経口摂取は単に栄養を補うだけでなく、その人の尊厳を維持することにもつながります。われわれ理学療法士は、食事に関する呼吸機能、運動機能、座位保持機能などの身体要因以外にも、椅子やテーブルなどの食事環境等にもアプローチできる職種です。

理学療法士の活躍の場は、病院以外に施設や在宅にも広がっていますが、あらゆる場所においても介入ができることは理学療法士の強みと言えます。

わたくしは現在、日本栄養・嚥下理学療法研究会に関わらせていただいておりますが、今後も、摂食嚥下に関わる理学療法士の仲間を増やすこと、そして、みんなで研究成果を蓄積し、摂食嚥下障害のある方々に理学療法士が介入することの価値を高めていきたいと考えております。

何卒よろしくお願い申し上げます。

役員歴

2021 / 4 ~ 10 : 日本栄養・嚥下理学療法研究会 評議員
2021 / 6 ~ : 日本理学療法学会連合 研究推進委員
2021 / 10 ~ : 日本栄養・嚥下理学療法研究会 理事



氏名 高橋浩平

年齢 43

所属 田村外科病院

立候補の趣旨

この度、栄養・嚥下理学療法研究会の理事に立候補しました高橋浩平です。効果的なリハビリテーションを実施するためには、理学療法士も栄養評価を併用することが重要です。また近年、多職種と連携して進めるリハ栄養により、身体機能やADL能力がより向上することが示されてきています。このことから、理学療法士は栄養学の知識を身につける必要があると考えられます。

私は、これまでリハ栄養や栄養理学療法の臨床、研究、教育を通して、栄養の重要性を普及させることに努めてきました。栄養の重要性は普及してきたものの、理学療法士にどのような栄養の知識が必要で、どのように多職種と連携していくか、などについては、まだ確立されていないような状況だと感じます。

今後も栄養・嚥下理学療法研究会の理事として、活動する機会が得られましたら、皆様と協力しながら臨床や研究をこつこつと「理学療法士に必要な栄養学」を整理し、「理学療法士が行うべき栄養評価」や「リハ栄養管理における理学療法士の役割」などについて確立していきたいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

役員歴

2016年 栄養・嚥下理学療法部門運営幹事
2021年 栄養・嚥下理学療法研究会理事



氏名 石川淳

年齢 38

所属 香川大学医学部附属病院

立候補の趣旨

私はこれまで15年余り主に急性期の臨床現場において、栄養・嚥下理学療法を実践して参りました。2019年からは本研究会の前身である栄養・嚥下理学療法部門の運営幹事として本会の運営に携わっております。

栄養・嚥下に関する問題は、理学療法対象者の全身状態やQOLなど各種アウトカムに影響する要因であり、理学療法実施に際して十分考慮すべき問題です。また栄養・嚥下理学療法は対象者の疾患や治療フェーズに限定されるものではなく、幅広い領域で対応が求められております。しかしながら、現時点では栄養・嚥下理学療法に関するエビデンスは十分とは言えず、評価・治療方法など様々な課題を認めております。

本分野の発展には、より多くの現場から臨床的疑問を拾い上げ、臨床研究を推進し、栄養・嚥下理学療法のエビデンス構築を目指す必要があります。本研究会は法人学会を目指し、栄養・嚥下理学療法学の確立に向け前進しつつあります。栄養・嚥下理学療法は理学療法士にとって大きな可能性を秘めた分野でもあり、今回理事に立候補し、本分野の発展に貢献できるよう尽力したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

役員歴

2019年4月～2021年 栄養・嚥下理学療法部門 運営幹事
2021年10月～現在 日本栄養・嚥下理学療法研究会 理事（ガイドライン委員会委員長）



氏名 内田学

年齢 47

所属 東京医療学院大学

立候補の趣旨

東京医療学院大学の内田学と申します。この度、日本栄養・嚥下理学療法研究会の理事に立候補させていただきます。これまで、同研究会の運営幹事、理事として活動してまいりましたが、この組織が存在する事は大変意義のある事であると感じております。栄養、嚥下共に専門的な職種が多く存在しますが、我々の武器である「運動」という要素を加えることで更なる効果を引き出す可能性が秘められていると考えております。その強みを含めて、社会に対して情報発信を続けている本研究会は、今後もブレーキをかけることなく加速的に飛躍する必要があります。他の学会と比較するとまだまだ歴史が浅く、経歴則としての実績も希少です。そのような状況につき、質の高い研究成果もまだまだ不足しているという現状です。組織力や質を上げるという事は簡単なものではなく、これまでも苦勞をしておりますが、まずは我々の想いに共感していただき、我々と一緒に多くの現場で活躍してくれる仲間を作っていくところから頑張らなければなりません。土台を広げる事で頂は高くなります。質を上げるためには全国の仲間が必要です。理学療法士に限らず、多くの職種の方々と議論し、栄養・嚥下理学療法が果たせる使命を少しでも形にしていきたいと考えております。

栄養・嚥下理学療法研究会としての活動を今まで以上に発展させ、栄養と嚥下の課題に対して理学療法士が当たり前に参画できる社会的立場を形成する為に尽力していきたいと考えております。

役員歴

2021 - 現在	日本栄養・嚥下理学療法研究会理事
2019 - 現在	日本理学療法士協会編集委員会査読委員
2019 - 2021	日本栄養・嚥下理学療法研究会運営幹事
2017 - 2020	日本理学療法士協会拡大検証委員会委員
2016 - 現在	東京都理学療法士会多摩支部支部長
2015 - 2017	日本理学療法士協会社会局調査部部員